

（アセスメントで明らかにするもの）							
課題分析標準項目	状 態	原 因		問 題 （困りごと）	生活全般の解決すべき課題（ニーズ）	ニーズ番号（優先順位）	
健康状態	病名 脊柱管狭窄症再発、座骨神経痛、変形性膝関節症、陳旧性脳梗塞、糖尿病・（神経障害）、高血圧症	疾患の治療  もの忘れ  陳旧性脳梗塞後遺症	利用者	脚の痛みやしびれのため動く気になれない。先のことが心配になってきた。	痛みが和らぎ、病状が安定し、健康に生活ができる。	1	
	通院 長谷川内科クリニック：月1回通院、整形外科：月1回通院		家 族	夫）痛がっているのを見ているのはつらい。 長女）薬の飲み忘れがないようにしてほしい。	夫）痛みが和らぐだけでも本人は随分と楽になると思う。 長女）病気を改善して、家のことができるようになる。		
	服薬 降圧剤、鎮痛剤 本人管理だが飲み忘れがある。長女が確認（土日） 麻痺 左上下肢に軽いしびれ（利き腕は右） 身長：155cm、体重：42.0kg、BMI：17.48		意 見	CM）各疾患と痛み、しびれ、日常生活の関連を確認し、改善できることを明らかにしていく。服薬管理も重要である。	CM）疾患の治療と痛みのコントロールをすることで、日常生活の改善を図る。		
ADL	食事：自立。排せつ：移動時に段差があるので一部介助（一度トイレに間に合わなかったことがある）。入浴：浴室までに段差が多数あり。浴槽への出入りのまたぎ時に介助（長女が土・日に1回入浴介助）。更衣：屈伸が不自由で靴下は介助。移乗：不安定なため時に介助が必要。移動：段差がなければつかまり歩行、見守り。整容：ほぼ自立。	脊柱管狭窄症等による痛みがあり歩行が不自由	利用者	転ぶことが心配で、歩きたくない。	転倒の心配がなく歩けるようになり、身の回りのことは自分でできるようになる。	2	
			家 族	長女）もっと世話をしたいけど、自分の仕事があるので、土・日しかできない。	長女）これ以上悪化せずに、少しずつ動けるようになる。		
			意見	CM）このままだと、ますます動けなくなりそうだ。	CM）痛みが改善し、身の回りのことができるようになる。そうすれば意欲や自信も回復する。		
IADL	調理：数回したもののほとんど行っていない。買物：日用品は長女、惣菜などは夫が買ってくる。掃除・洗濯：日曜日に長女が訪問して行う。金銭管理：夫が行う。	脊柱管狭窄症等による痛みがあり歩行が不自由、意欲低下	利用者	足が痛くて動く気にならないので、家事も手につかず困っている。	リハビリに取り組んで自分でできることを増やしたい。	1に関連 3に関連	
			家 族	夫）料理の味つけに文句を言ったことが失敗だった。料理をしなくなり困った。 長女）好きだった料理もできず、つらい思いをしているのだろう。	夫、長女）症状を改善させて、台所に立てるようになってほしい。		
			意見	CM）好きだったお菓子づくりができれば自信を取り戻せるかも知れない。	CM）本人の状態に合わせ、お菓子づくりなどできることを増やしていく。		
認知	調理の味つけが以前のものと違う。同じことを繰り返し聞くことがある。タンスに自分の持ち物を出し入れしたり、外出時に手提げ袋の中身を出したり入れたりを繰り返す。	もの忘れ	利用者	最近、動かないせいか頭がぼーっとぼうっとしているときがあるのが不安だ。		1に関連	
			家 族	夫）もの忘れをするようになってきたのも心配だ。			
			意見	CM）低栄養や脱水の影響で普段の体調が崩れているのかもしれない。それが精神面にも影響しているおそれがある。	CM）普段の体調が整っても改善されない場合は、専門医の診断が必要かどうか主治医や地域包括支援センターに相談してはどうか。		
コミュニケーション能力	視力・聴力：問題なし 痛みが激しい時は話がかみ合わないことがある。		利用者				
			家 族				
			意見				
社会との関わり	今年の4月より閉じこもった生活をしている。 長男の工務店で夫が働いているが、長男の訪問は不定期。長女は近所に住んでいるが、共働きのため土・日のみ訪問。 ハイキング仲間がいる、町田さん。4月以降来てない。保育士をしていたときの教え子が年に何回か訪れる。4月以降来ていない。	脊柱管狭窄症等による痛みがあり歩行が不自由のため、閉じこもり	利用者	友だちとハイキングに行けなくなったし、教え子にも会えないのが寂しい。	友だちとまたハイキングに行きたい。教え子に会ってお菓子づくりやおしゃべりもしたい。楽しみのある生活がしたい。	3	
			家 族		夫、長女）友人や教え子たちと会って、気分転換してほしい。		
			意見	CM）友人や教え子との交流が途絶えて、ますます意欲が低下しているようだ。	CM）リハビリの目標をハイキングに行くことにしてはどうか。		
排尿・排便	尿・便意はある。痛みのため歩行が思うようにできず、間に合わないことがあった。トイレは寝室の横。 排便は4日に1回程度。	脊柱管狭窄症等による痛みがあり歩行が不自由	利用者	1人でいるときは、トイレに行くのに時間がかかり漏らすのが心配。	せめて、トイレは自分で用足しできるようになりたい。	2に関連	
			家 族	夫）そろそろ自分も妻の世話に専念して仕事を辞めるべきかな。	夫）段差を解消して自分で行けるようにする。		
			意見	CM）排せつの失敗は自信喪失に大きく影響すると思う。	CM）トイレ動作を確認して、トイレを失敗しないようにする。		
じょく瘡・皮膚の問題	特に問題なし。		利用者				
			家族				
			意見				
口腔衛生	部分義歯。 歯みがきは自分でしている。口腔内に異常なし。		利用者				
			家 族				
			意見				
食事摂取	普通食摂取。医師より、低体重なので糖尿病食は摂らないでバランスの取れた食事で栄養改善を図るようにいわれている。 水分量700mL。水分を勧めてもトイレに行きたくないからと拒否がある。	歩行が不自由	利用者	一人で食べる食事は美味しくない。トイレが気になるので水分は控えている。	たまには孫たちとも食事をしたい。	3Iに関連	
			家 族				
			意見	CM）BMIからすると低栄養が心配。水分摂取が少ないことも心配である。	CM）低栄養、脱水の防止に気をつける必要がある。		
認知症の行動・心理症状(BPSD)	なし		利用者				
			家 族				
			意見				
介護力	夫が介護しているが、家事は全くしたことがなく、頑固な性格、大工仕事はしているが健康というほどではない（虚弱）。 長女は土・日のみ。	夫が家事・介護未経験	利用者			3Iに関連	
			家 族	夫）家事経験もなく、介護の経験もないので、今はあまり役に立てない。 長女）土・日以外はちょっと厳しいと思っている。	夫）自分もできる家事を増やしていく。 長女）母が元気になるため、できる限り協力したい。		
			意見	CM）家族の協力は必要だが、家族に過大の負担をかけては長続きしない。	CM）家族と専門職の連携を図り、夫のできることを増やす。		
居住環境	持ち家、2階建て、自室は1階にあり、1階部分で生活をしている。 布団で寝起きしている。 洗濯はしてないため、2階には上がらない。 段差が多い。	段差がある 布団のため寝起きが困難	利用者	段差が多く移動がおっくうになる。	段差がなく手すりがあれば歩きやすくなる。	2に関連	
			家 族	夫、長女）住宅改修をしたら歩行が楽になるのだろうか。	夫）自分は大工なので住宅改修を検討する。 長女）兄の会社が工務店なので、段差解消をしてもらおう。		
			意見	CM）段差があり、手すりがなく、歩行が不安定なので、転倒リスクが高	CM）段差解消、手すりを設置して、不安なく歩けるようにする。ベッドを使って起居動作を改善する。		
特別な状況	特になし。						